

1. 評価報告概要表

【評価実施概要】

事業所番号	4075900110		
法人名	有限会社 筑豊調剤介護センター		
事業所名	グループホームうすい		
所在地	福岡県嘉麻市下白井1082番地66		
	電話 0948-62-2555	FAX 0948-62-5666	

評価機関名	特定非営利活動法人ヘルスアンドライツサポート うりずん		
所在地	福岡県直方市知古1丁目6番48号		
訪問調査日	平成19年10月7日	評価確定日	平成19年10月29日

【情報提供項目より】(平成19年9月29日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成16年7月1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	8 人	常勤 8 人, 非常勤	人, 常勤換算 人

(2) 建物概要

建物構造	木造平屋 造り		
	1 階建ての	1 階 ~	1 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	41,000円	その他の経費(月額)	水道光熱費 10,000円
敷金	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり 1,300 円		

(4) 利用者の概要(9月29日現在)

登録人数	9 名	男性 4 名	女性 5 名
要介護1	2 名	要介護2	1 名
要介護3	5 名	要介護4	1 名
要介護5	0 名	要支援2	0 名
年齢	平均 83 歳	最低 60 歳	最高 93 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	鎌田病院 桂川歯科
---------	-----------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

グループホームうすいは、加入している自治会にスーパーマーケットや内科・歯科の医療機関があり、周囲は静かな住宅地にある一ユニットで平屋建てのグループホームである。ホームが通りに面していることや、通りからガラス越しに事務室が良く見え気安さもあり、社会科見学を受け入れた近くの小学生の訪問が時折ある。17人の家族が共同生活をする場として近隣の方々とは朝夕に挨拶を交わしているが、庭木の剪定の心得のある入居者が隣人の剪定に意見を言うこともあり、管理者はホームへの理解や協力をお願いしている。訪問調査当日にもお隣からお花の差し入れがあり、生け花の心得のある入居者に役割づくりをしている。入居者の日ごろの生活ぶりを家族に伝えるために、大きく引き伸ばした写真集を作成しているが、入居者が他の入居者の食事介助をしている場面の写真や食事の折に入居者同士の健康を気遣う等、まさに共同生活である。今年の初め管理者が交代し、職員とともにケア内容や記録様式を見直し、今後は地域密着型サービスとして更なるケアの向上が期待できるホームである。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回の外部評価結果に沿って、認知症ケアや緊急対応に関する研修参加、モニタリング表の作成や介護経過記録の改善、入浴日等に関する話し合いを行っている。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>自己評価や外部評価の意義や活用を理解し、自己評価はまず全職員各自で記載し、カンファレンスで意見を取りまとめて記載している。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な検討内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4、5、6)</p> <p>運営推進会議に関する規程を定め、委嘱状を交付している。2ヶ月毎の開催で、事業内容を報告し、参加者の意見を会議録に記載しているが、市担当職員・地域代表の参加や前回の外部評価に関する報告をしていない。</p>
	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7、8)</p> <p>入居者の日ごろの暮らしぶりは、毎月家族が利用料等の支払いに訪れる際、伝えている。入居者が行事に参加した写真を大きく引き伸ばした写真集を各入居者ごとに作成し、家族から喜ばれている。業務日誌に月2回の主治医受診状況を記載し、随時家族に報告し記録している。日用品を購入する預かり金の出納帳に家族のサインがある。職員の交代等は信頼関係作りのために適宜入居者・家族に報告している。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>自治会に加入し回覧版も回ってくる。町内の美化活動や行事に参加を申し出ているが、近隣がホームの参加に戸惑いがある。近隣の方々にはホームの理解と協力をお願いし、日ごろから挨拶を交わしているため、調査当日にはお隣からお花の差し入れがあった。近くの小学校の社会科見学を受け入れている。</p>

2. 評価報告書

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	グループホームを入居者9名と職員8名の17人の家族が共同生活をする場とした運営理念を掲げ、地域と交流しているが、重要事項説明書等に今回の法改正の「地域との交流の下」の記載がない。	○	法改正の理解はあるので、重要事項説明書等の方針や目的に「地域との交流の下」を謳っていただきたい。また、運営理念等は入居者や家族の目線の高さに掲示をお願いしたい。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者は機会あるたびに理念について、職員に話している。職員も理念を理解し、日ごろのケアに活かしている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会に加入し回覧版も回ってくる。町内の美化活動や行事に参加を申し出ているが、近隣がホームの参加に戸惑いがある。近隣の方々にはホームの理解と協力をお願いし、日ごろから挨拶を交わしている。調査当日にはお隣からお花の差し入れがあった。近くの小学校の社会科学見学を受け入れている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価は全職員で分担して記載し、管理者が意見を取りまとめ記載している。前回の外部評価結果に沿って、認知症ケアや緊急対応に関する研修参加、モニタリング表の作成や介護経過記録の改善、入浴日等に関する話し合いを行っている。	○	1月から入職した管理者が中心となって全職員でケアの見直しを実践しているので、今回の外部評価の意義の理解や活用を期待したい。
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議に関する規程を定め、委嘱状を交付している。2ヶ月毎の開催で、事業内容を報告し、参加者の意見を会議録に記載しているが、市担当職員・地域代表の参加や前回の外部評価に関する報告をしていない。	○	地域との交流を促進するためにも、地域代表である民生員や自治会長及び市担当職員の参加が求められる。参加家族からの率直な意見もあるので、議事録の意見には記名をお願いしたい。また、今回の外部評価結果の報告を併せてお願いしたい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	現在のところ市町村との連携はない。	○	管理者が入職前は居宅介護支援に関わっていたこともあり、他の介護サービス事業者等からホーム見学や認知症・認知症ケアについて相談があるので、市担当者と連携しながら認知症・認知症ケアの相談窓口の設置を期待したい。
7	10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者と職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会をもち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれを活用できるように取り組んでいる。	管理者は成年後見制度等の研修に参加している。入居者1名の成年後見制度の活用を支援し、パンフレット等を取り揃えている。職員にもパンフレット等で制度について説明している。		
4. 理念を実践するための体制					
8	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	入居者の日ごろの暮らしぶりは、毎月家族が利用料等の支払いに訪れる際に伝えている。入居者が行事に参加した写真を大きくした写真集を各入居者ごとに作成し、家族から喜ばれている。業務日誌に週2回の主治医受診状況を記載し、随時家族に報告し記録している。日用品を購入する預かり金の出納帳に家族のサインがある。職員の交代等は信頼関係作りのために適宜入居者・家族に報告している。	○	金銭出納を確認した家族のサインとともに出納を説明した職員のサインもお願いしたい。
9	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	重要事項説明書に行政機関やホームの苦情担当窓口を明記し、共有空間に掲示したり、ご意見箱を設置している。家族会を発足しているが、現在開催はしていない。運営推進会議では家族から職員の離職について率直な意見がある。	○	家族会は発足しているので、家族間の交流と家族が率直な意見を表出する場として家族会の再開を期待したい。
10	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	運営者は運営者研修を受講している。管理者は職員に認知症のケアについて日ごろのケアを通じて指導したり、職員の研修参加の促しや職員が意見を言い易い職場作りで職員の離職を防いでいる。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
11	19	○人権の尊重 法人代表及び管理者は職員の募集・採用にあたっては性別や年齢を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮し生き生きと勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるように配慮している。	職員採用は年齢・性別等の区別・基準はなく、ハローワークを活用しているが、やさしくあいさつができることが大切だと管理者は話している。雇用契約書を整備し、職員の休みの申し出を配慮した勤務表の作成等で、職員が生き生きと働ける職場作りをしている。	○	職員の勤労意欲を亢進するためにも、就業規則の整備をお願いしたい。
12	20	○人権教育・啓発活動 法人代表及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員に対する人権教育・啓発活動に取り組んでいる。	管理者は、人権について日ごろのケアを通じて職員に伝えているが、研修と位置づけしていない。身体拘束防止マニュアルの整備をしているが、高齢者虐待防止マニュアルがない。	○	介護サービス従業者の人権研修は必須なので、行政機関等が主催する人権研修参加や高齢者虐待防止マニュアルの作成・研修実施をお願いしたい。
13	21	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	現管理者が入職後は、職員の段階等に応じた研修参加を促し、研修実施記録を整備している。受講した研修は他の職員に資料を配付している。職員の悩み等は管理者が対応している。		
14	22	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者は職歴や人脈を活かし、他町のグループホームと交流し、情報交換をしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
15	28	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	ホームの見学・誕生会の参加等でホームの雰囲気等に馴染んでもらっている。入居希望がある場合は他の介護サービスも紹介し、グループホームへの入居が適切かを話している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
16	29	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は、入居者から植木や園芸等を学ぶことが多く、また会話の中で言葉遣いを注意されることもあり、認知症の入居者の健康な能力に感動している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
17	35	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者の意向や心身の状況、生活歴・職歴等をアセスメントし、週間スケジュールを作成している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画と見直し					
18	38	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	入居者や家族の意向、心身の状況、生活歴・職歴等をアセスメントし、具体的な介護計画を作成している。	○	介護支援専門員である管理者を中心に介護計画を作成しているため、介護計画と日々のケアを連動させるためにも全職員の話し合いによる介護計画作成が求められる。
19	39	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	6ヶ月または随時見直した介護計画を家族に説明し了承を得ている。介護計画の見直しのためにモニタリング表を作成し、担当者によるモニタリングに沿って介護計画作成担当者が計画の見直しをしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
20	41	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	受診に家族が同行できない場合は、自主サービスで同行したり、協力医療機関との連携による緊急対応等で、疾患の重篤を防止している。また、墓参りや親戚への訪問等も状況に応じて自主サービスで支援している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
21	45	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	希望する医療機関の受診支援で健康を管理している。医療機関の指示等は、業務日誌で職員に周知し、状況に応じて家族に連絡している。		
22	49	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居者の状況に応じて、重度化や終末期のあり方を家族、主治医、職員等で話し合いを行い、支援経過を記録しているが、重度化や終末期のあり方に関する指針を定めていない。	○	認知症の特性を鑑み、重度化や終末期のあり方に関する指針の整備をお願いしたい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
23	52	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個人情報の利用に関する同意書を整備し、入居者や家族の同意を得ている。管理者は入居者のプライバシーの保護や人権について日々のケアを通じて話しているので、入居者に対する職員の対応は穏やかで、居室訪問時には必ずノックしたり、郵便物は直接手渡している。	○	個人情報の保護に関する規程等を整備し、入居者等に配付するとともに掲示をお願いしたい。トイレのドアをカーテンやアコーデオンカーテンで代用しているので、入居者の排泄時におけるプライバシーについて検討をお願いしたい。
24	54	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者の行動パターンに合わせた食事等の声掛けで、入居者のペースを大切にケアを実践している。また、入居者のおしゃれ染めの希望で美容院に行ったり、希望時に医療機関の受診を支援している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
25	56	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者の心身の状況に応じて食卓を分け、見守り、声かけ、食事介助等をしている。食事のしたごしらえや食器拭き等ができる入居者には声をかけ、係わりを支援している。職員1名が伴食している。		
26	59	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	週3回入浴を支援しているが、いつでも入浴できる体制作りを検討中である。入浴拒否者は声かけのタイミングや曜日を変えて対応し、入浴を支援している。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
27	61	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	入居者の職歴・生活歴から、植木、園芸、活け花等で役割作りや楽しみごとを支援している。		
28	63	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	毎月の行事計画もあるが、入居者の希望に応じてホーム周辺の散歩スーパーに買い物、ドライブ等で100円ショップで買い物をしたり、時期の食材である土筆採りにでかけている。		
(4)安心と安全を支える支援					
29	68	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	ホーム玄関は道路に面し車の出入りもあるが、管理者は全職員に施錠の弊害を日ごろから説明し、施錠はしていない。出入りに事務所があり、入居者の動向を把握している。自治会に加入することで、近隣に理解や協力をお願いしている。		
30	73	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	緊急連絡網を整備している。避難訓練は消防署に協力をお願いして近々実施する予定である。消火器を設置しているが、非常災害用の備蓄はない。	○	地域に協力を呼びかけて、非常災害避難訓練をお願いしたい。また、非常災害マニュアルの作成や非常災害に備えて備蓄台帳の作成も検討していただきたい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
31	79	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	各入居者毎に毎食の食事摂取量・水分摂取量を把握し記録している。栄養のバランスや摂取カロリーは施設の管理栄養士から指導を受けている。入居者の嗜好や嚥下・咀嚼状態に応じてお粥等に食形を工夫したり、既往症のある入居者は主治医が指示した水分・塩分の摂取を支援している。定期的に体重を測定している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
32	83	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	道路に面した玄関のプランターには季節の花が植えられ、グループホームうすいと大きな看板が設置されている。玄関傍の事務所は外からよく見え、管理者は「入居者や職員の対応まで外から見えています。」と話している。玄関から続く共用空間は広々と明るく、ソファの設置した一角は畳敷きで落ち着いた雰囲気である。		
33	85	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は好みによって、畳を敷くこともできる。ベット・箆笥はホームの備え付けであるが、馴染みの日常品の持込がある。入口に表札や暖簾を掛けたり、個性的な居室づくりをしている。		